

池子一ム 台風の大雨の影響により、土砂で埋もれてしまった池や水路の整備をしました。



森手一ム 柵に依えそうな枝を集め、高さを測りながら柵を作りました。



道子一ム 谷津田までの普通道を歩きやすいように整備しました。



整備後の池、柵、道と、集合写真。なべちゃんが見つけたシカの角も一緒に。



1月13日 東京都緑の少年団交流大会！



「次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした緑の少年団」。コレンジャーは、今期から少年団に登録することになりました。

2018年秋に、今年で42回目となる全国青桐祭が東京都で開催されるため、東京都で活動する少年団の交流大会が1月13日に行われました。東京都で活動する団体の角8団体が集い、自分たちの活動発表を行いました。

「発表やりたい！」と手を挙げた、またちゃんとはね。10月から週に1回集まって準備してきました。10月から週に1回集まって準備してきました。だから、たくさんの方に自然を大切にもらいたい。だから、たくさんの方に自然を大切にもらいたい。だから、たくさんの方に自然を大切にもらいたい。

しかし二人とも4年生です。リーダーのたまきとゆうきに協力をお願いしたところ「いいよ～お」と、積極的に引き受けてくれました。当日は、パソコン操作者として、壇上以上に上がってくれました。

最優秀者には選ばれませんでした。でも、みんなで準備してきたことや、自主練してきたことをしっかり発表していた発表でした！そして、「あきる野の自然やコレンジャー活動のこと」を伝えてくれました。

自分たちの想い、先輩たちの想い、レンジャーの想い、自然の想い……いろいろなことを思いながら、一緒に作ってきたね。発表したね。本当にお疲れ様でした。そして、みんな、ありがとう！



森の子コレンジャー通信



2018. 1. 2. 3月号
発行：森林レンジャーあきる野

1月は3チームに分かれたの活動!

今月も子どもたちがそれぞれ興味があることを選んで、見つけに&やりに森へ出発しました!
内容は、コレンジャーの活動報告書をご覧ください!



学年	1月14日	天気	晴れ
参加者	水口 翔太郎、大川 悠也、梶原 悠斗		
活動内容	今高木川で、木を植える活動を行いました。木を植えるだけでなく、木を育てることも大切です。		
感想	木を植えることができて、とても楽しかったです。木が成長したら、みんなが木陰で遊ぶことができます。		



学年	1月14日	天気	晴れ
参加者	山本 悠斗、山本 悠斗、山本 悠斗		
活動内容	雪の上のあしあと探しを行いました。雪の上には、動物の足跡がたくさん残っています。		
感想	雪の上のあしあとを探ることができて、とても楽しかったです。動物の足跡を見つけたときは、とても興奮しました。		



学年	1月14日	天気	晴れ
参加者	物産 彩乃		
活動内容	雪の上のあしあと探しを行いました。雪の上には、動物の足跡がたくさん残っています。		
感想	雪の上のあしあとを探ることができて、とても楽しかったです。動物の足跡を見つけたときは、とても興奮しました。		

2月は延期となった10月の振替え活動を行いました

インフルエンザや予定が合わずに、欠席者が多い回数となりましたが、今月も子どもたちがそれぞれ興味があることを選んで、見つけに&やりに森へ出発しました!
雪が降った後の森を歩き、それぞれのチームで野生動物や痕跡を探りましたね♪



学年	2月10日	天気	晴れ
参加者	中山 珠呼		
活動内容	雪の上のあしあと探しを行いました。雪の上には、動物の足跡がたくさん残っています。		
感想	雪の上のあしあとを探ることができて、とても楽しかったです。動物の足跡を見つけたときは、とても興奮しました。		



学年	2月10日	天気	晴れ
参加者	木崎 口谷 悠斗		
活動内容	雪の上のあしあと探しを行いました。雪の上には、動物の足跡がたくさん残っています。		
感想	雪の上のあしあとを探ることができて、とても楽しかったです。動物の足跡を見つけたときは、とても興奮しました。		



Morinoko CORANGER
あきる野

森の子コロンジャー通信
2018・始動式号
発行：森林レンジャーあきる野

第8期森の子コロンジャー始動！



参加者 新報者

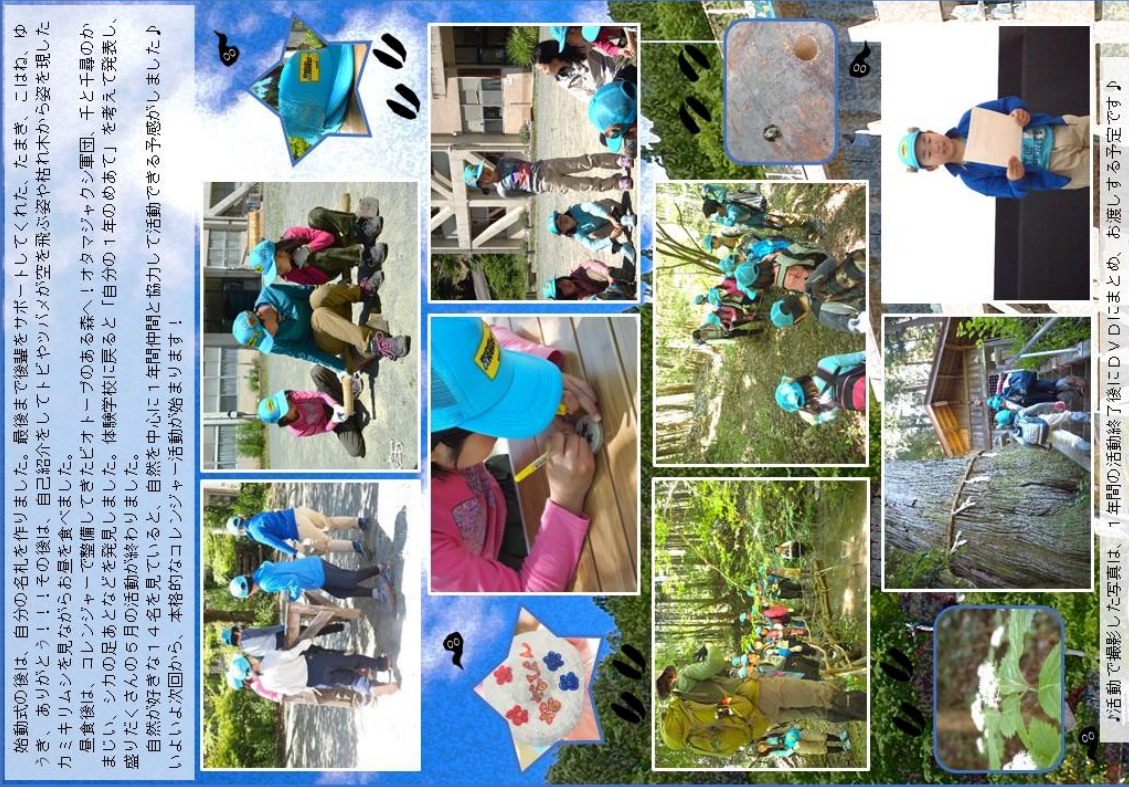
2018年5月20日の日曜日、晴れ。
今年で8期目となる森の子コロンジャーが始動しました！

継続参加者7名と新規参加者7名の14名。1年間共に活動していく仲間です。始動式では、新規参加者にコロンジャーの証である帽子を、全てのコロンジャーに野帳と森っこサンちゃんびつを渡しました。

継続して参加しているコロンジャーには、「レンジャーや自然から教わったことををリーダーとして新しいメンバーに伝えてほしい、自分が興味のあることを追求してほしい」、新しいメンバーには、「はずかしくがらずにレンジャーやリーダーに話しかけて1年間を大切に過ごしてほしい」と伝えました。

「あなたをコロンジャーとして認定します
仲間と絆を結び、あきる野の自然とふれあい
学ぶことを目標に、1年間楽しく活動しましょう
そして素晴らしい自然を発見し、喜び合い、共に守っていきましょう」

コロンジャーとして活動していく1年間、この気持ちを胸に、自然や地域への想いを仲間と共に育ててほしいと思います。



始動式の後には、自分の名札を作りしました。最後まで後輩をサポートしてくれた、たまき、こはね、ゆうき、ありがとう！！その後は、自己紹介をしてトビやツバメが空を飛ぶ姿や枯れ木から姿を現したカミキリムシを見ながらお昼を食べました。

昼食後は、コロンジャーで整備してきたピオトープのある森へ！オタマジャクシ軍団、千と千尋のまじい、シカの足あとなどを発見しました。体験学校に居ると「自分の1年のめあて」を考えて発表し、盛りだくさんの5月の活動が終わりました。

自然が好きなら14名を見ていると、自然を中心に1年間仲間と協力して活動できる予感がしました！！いよいよ次回から、本格的なコロンジャー活動が始まります！

活動で撮影した写真は、1年間の活動終了後にDVDにまとめ、お渡しする予定です！

Morinoko CORANGER
あきる野

森の子コロンジャー通信
2018. 6、7、8月号
発行：森林レンジャーあきる野

6月の活動は、鳥と植物の2チームに分かれて調査しました。自分が学びたい季節の自然を発見しました！

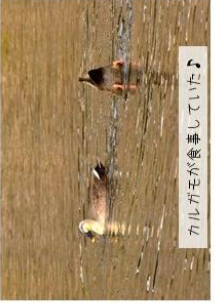
鳥（バプロ）チーム：しゅんすけ、たまき、またさぶろー、そうた、ふうな、あいな



キビタキ（オス）



ホオジロ（オス）



カルガモが食事していた♪



今日の発見を報告する



サクラの葉（柄）の蜜腺に、アリが来ている！



ハナカイダの葉の秘密を発見！



身近な葉でスタンプ！



スタンプした葉を調べて深く知る！

7月の活動は、午前は賞状茶で花を飾るプランターカーバー制作、午後は2チームに分かれての活動です！



けんすけが来てくれました！！

イチョウのお世話♪



プランターカーバー作り



完成～！もっと作りたーい！！

午後の活動は自分で遊ぶ



動物のレストランに備え作る



池を利用して水生生物を調べる



Shirayuki RANGER 森林レンジャーあきる野新聞

Vol.99 2018年9月号
発行:森林レンジャーあきる野(加瀬澤)

多くの野生動物が利用するどんぐり。今年も市内のどんぐりが実る木367本の産果状況を調査しました。

左の図は、市内西部を7つのエリアに分けてどんぐりの産果状況を表したものです。どんぐりは、ブナ (Dエリアのみ)、ミズナラ、コナラ、ヤマグリです。

産果状況は昨年と比べて少し悪いですが、A～Gエリア全体の実りとしては昨年同様豊作です。

樹種別にみると、昨年豊作だったブナが凶作、ミズナラ・コナラが昨年に続き豊作、昨年不作だったヤマグリは不～豊作です。

また、本市の西に位置する権原村の状況を2地点確認し、ミズナラが不～豊作、ヤマグリとコナラが豊作でした。

樹種	産果状況
ブナ	凶
ミズナラ	豊～豊
ヤマグリ	不～豊
コナラ	豊～豊

クリは、どんぐりの中で最初に成熟し、早い所では8月下旬から哺乳類が利用し始めます。人家付近にあるクリやカキは収穫しましょう。

コレンジャー活動報告 1 「どんぐりの実り調査」

猛暑となった8月の活動日、どんぐりの実り調査を行いました。

暑中、汗を拭いながらミズナラ、クリ、コナラ、アラカシの実を調査し、結果をまとめました。平成25年からの記録を見ると今年は昨年に比べて実が少ないことがわかりました。

調査地では、穴の開いたどんぐりや未熟などんぐりが枝ごと落ちていて、翼が何枚かに食べられていることを見られ、色々な生き物に利用されていることを知りました。

できることからやりましょう

- 果実は収穫しましょう
- 糞や肥料などは屋内に入れません
- ゴミは決まった時間に出しましょう
- 野生動物への餌付けはやめましょう
- 野生動物の隠れ場所になる草を整理しましょう
- 山に入る心構えや準備をしましょう
- 夜の一人歩きは控えましょう

コレンジャー活動報告 2 「全国賞樹祭に向けて」

昭和52年から毎年秋に行われている国民的な森林・緑の祭典「全国賞樹祭」が、11月17、18日に東京都で開催されます。コレンジャーも参加する予定で、初選から準備をしています。

一つは、式典で贈呈する苗木を育てること。もう一つは、賞樹祭に花を飾るプランターカバーを製作することです。未来の自然や地域を思いながら、東京都の木である「イチヨウ」を育て、スズのよい香りがする丈夫な「多摩産材」のプランターカバーを作るなど、楽しんで準備しています！

森林レンジャーあきる野新聞は、来月いよいよ100号目を迎えます！

「森林レンジャーあきる野新聞」の18年6月号で「コレンジャー活動報告」を行いました！

8月の活動は、みんなでどんぐりの実りを調査しました。このどんぐりの調査は第3期から続けています。

ここでは質問です！どんぐりは、たねでしょうか？実でしょうか？答えは、たねではなくブナ科の“果実”なんです！果肉の部分が発達せず、簡単に言ってしまうとたねと種皮と種子（次世代を担う大切な所）で構成されています。日本では22種のどんぐりがあり、コレンジャーの豊凶調査では、コナラ、アラカシ、クリ、ミズナラの4種を調査しています。

暑い中、汗をかきながら、梅干や黒糖を食べてミネラルと糖分も補給しながら調査しました。

肉眼で確認できない所にあるミズナラは、双眼鏡の使い方がなれているリーダーにお願ひがありました。

みんな、暑い中、協力ありがとうございました！！

どんぐりの実り調査の記録

コレンジャーが平成25年から続けてきた、どんぐりの実り調査の記録。今年ほどの種も昨年より実が少なく、アラカシとクリがこれまでに一番実が少なかったことがわかる。

森の子コレンジャー通信

2018. 9. 10. / 11月号
発行：森林レンジャー あきる野



9月の活動は鳥の渡りの調査です！バプロが毎年行っている調査を体験し、みんなの記録を残します。まずは、調査する猛禽類について学んでから森に出発です！森に分かれて調査開始。この調査は、いつ・どこに・何が・何が・どうやって現れるのか分らないので、風を感じて、太陽を感じて、ただ待ちます。じっと空に集中して双眼鏡を使いこなせるようになりますよ！！！！



タカの渡りについて（バプロ）

私にとって、タカの渡りは1年で最も楽しみにしている自然のイベントです。夏鳥にしても冬鳥にしても、一番好きな生き物たちが、それぞれの理由で時には群れで大移動します。毎年、サンバ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、ノスリなどを始め、あまり見ることができない美しいタカの種類の、あきる野を渡る場合があります。そして、長年これらの渡りを見続けていると、基本的なルートや気候条件などが明らかになります。自然は気まぐれなので、「当たり前外れ」が激しい時もあります。

今回のコレンジャーでの観察は、どちらかと言うと、外れでした（笑）。時期的には、渡りのピークですが、その日の天候など色々な影響があり、見られた個体数は少なかつたように思いました。それでも、オオタカやハチクマが渡る姿をみんな観察できたので、貴重な経験になったのではないかと感じました。生態系の頂点に立つ生き物たちは、日本の様々な地域や海外に渡って自然を察しているということを感じることができたのではないかと思います！また、自然の調べ方は色々あって、相手によってはこのように時間をかけてじっくりと我慢しなくてはならない観察方法があることを学ぶ一日でもありました。



10月は、地図を読みながら登山です！これまでの活動ではなかった長い登山となります。前日から天気予報がよって心配でしたが、当日の朝までの雨雲が多くなかったこと、天気図をよむと徐々に雨が止んでいくこと、そして朝のみんなの顔をみて「安全に登山できる」と判断をしました！まだ小雨がふる朝、地図について学びます。「この地図は、山々を上から見てみるんだ。鳥の目線で地図を見てみよう！」バプロの言葉に、難しそうな地図が少し楽しくなります。地図にたくさんある線は等高線といって、同じ高さの地点を結んだ線のこと。この等高線がわかれば、これから登る所は急なかなのか緩やかなのかわかる。そして、自分が今どこにいるのか、地図を見ながら登山することが必要・・・などなど。地図について理解できた所で、徐々に雨が止み、これから登る山が見えてきました。いよいよ出発です！山では、途中地図を見ながら現在地を確認しました。尾根にたつ所では、オレンジの景色が！ちよっと足がくむ程高い所まで登ったね。地図だけではなく皆さんの発見と経験を1日とりました！





森林レンジャーあきる野新聞

Vol.102 2018年12月号
発行：森林レンジャーあきる野(加瀬澤)

第42回 全国育樹祭 TOKYO 2018



11月17、18日に東京都で開催された全国育樹祭。健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるために昭和52年から毎年秋季に開催される国民的な森林・緑の祭典です。平成30年度は東京都が開催地ということで、コレンジャーも昨年からの緑の少年団に加入し、活動費や武典で花を飾るプラントナーカーバー製作、都外の少年団に贈呈する苗木の盲成を行い、武典ではコレンジャー4名が緑苗木の贈呈と皇徳殿下遊藝導の役割を担いました。誘導を行った2名には皇徳殿下からお声かけがあり「どちらでどのような活動をしているのですか」「あきる野市小宮地区で、どんぐりの美りを調べたりピクトボード整備の活動をしています」「どんぐりはどんなものがありますか?」「コナ

ラやミスナラなどです」「ミスナラですか!どんぐりはどのように見分けるのですか?」「葉っぱの輪郭の長さや、緑汁(かくと)の形などで見分けます」などの言葉を交わしました。皇太子殿下から「五日市の山は登ったことがあります。見晴らしがいいので好きです」と、お褒めをいただきました。

自然と共生してきた先人の知恵や技術、そして役割を終えた子どもたちの腫れやかな笑顔を見て「豊かな自然を次の世代に引き継ぐことが私たち大人の責務である」という皇太子殿下のお言葉に、身の引き締まる思いがしたのは私だけではないと思います。

コレンジャーの代表として、あきる野市の代表として登壇した4名、本当にお慶れ棒でした!!

「森林レンジャーあきる野新聞 12月号」より

森の子コレンジャー通信

2018.12.2019.1.3月号
発行：森林レンジャー あきる野



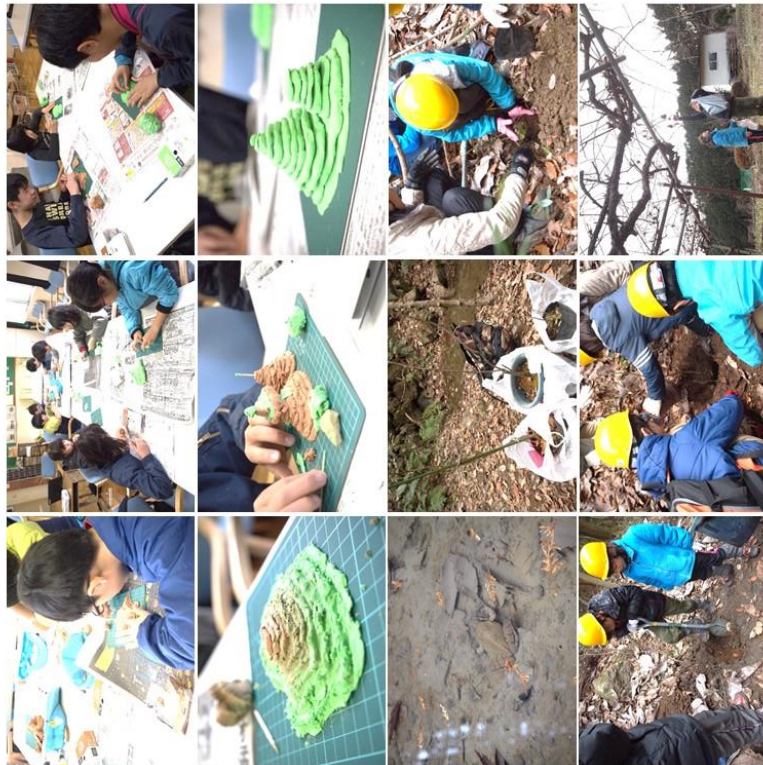
12月の活動は、ピオトープ整備です！昔、谷津田き物利用するようになりました。6年目となる8期では、として利用されていた場所、3期から水生生物が利用、台風の影響でたまった土の掘り出し、水路の砂防作するため水場作りと、多様な生き物が利用する葦の盛り、地面に口の光を当てるために木を切る等の整備を備を続けてきました。環境が変化することで、多様な生き物が行いました。



寒い冬に整備する意味、次の命のために木を切ること、切った木を使うこと、みんな水のこと、みんな協力したこと、ただ楽しかったこと...活動を終えて集合写真を撮りました！そして、森林レンジャーが行う自然のための活動に協力してくれてありがとうございました！！



1月 は、10月の「地図を持って登る山」「地図」に集めて「自分の山を作る」作業をしました。山を作る上での約束事を共有して、それぞれ自分の山を作りました。作りながら山の形や山を含む環境を作る子、自分が登った山を想像して作る子、高い山に登っている経験から色分けして山を表現する子、地形を想像して自分の理想の山を作る子、何度も作り直す子...それぞれ「自分の山」が完成しました！



植樹後は、6年前にツキノアグマが出てきたキクイノキが下山しました。キクイノキ、リンゴの空き箱、生ごみ...人が感じない程の匂いに引き寄せられて人里への出没が頻ったツキノアグマは、最終的に捕殺されました。コレンジャーでは、どんぐりの集りの調査を通して、人の行動も野生動物を人里へ誘引するきっかけとなることを知り、自分たちにできることを考え、注意喚起ポスターを



3月は、8期最後の活動で、終了式と夜の森観察です。
 終了式の前に、有志の5・6年生が集まり、イチヨウ6本を市の緑地に植樹しました。木が育つことを想像して植える場所を決めて、穴を掘り大切に植えました。子どもたちから緑地にゴミがたくさん捨てられているよ。拾おう！と声が上がりました。市の自然を次世代へつなぐ、自分たちが育てた苗木が育つ場所を大切にしてくれている気持ち、かっちゃんやハブロはとっても嬉しかったです。リーダーとして活動に協力してくれたみんな、ありがとう！！



終了式では、ピオトップのその後の様子を紹介し、1年の振り返りを自分が発表したいことを発表しました。始動式で立てた自分の目標を振り返り、活動の中で印象に残っていることやみんなに伝えたいことを自分のことばで発表し、コレクションとして活動した証“ピンバッジ”を受け取りました。レンジャーも1年間を振り返って発表をしました。



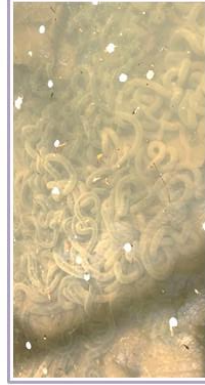
そして、今期でコレクション現役を卒業する5、6年生へ「活動報告書集」をプレゼントしました。最後に、締めようとした所・・・5、6年生からレンジャーへの嬉しいプレゼントを頂きました。色紙は小宮に飾りました♪ウェーダーは大切に使用させて頂きます！本当にありがとうございました！！



終了式の後は、いよいよ夜の森観察です！まず、夜の森に入る前のレクチャーを受け、今日の目的や自分たちの行動について学びました。自分の安全は自分で守る意識と、自然になるべく影響を与えないような観察方法を学び、準備万端！さあ、(やっど・・・)出発～！！



口が暑れる前に出発し、霧の花を発見したり、好奇心で自然の音が聞こえずらくなく聞いています。
 今回の夜の森は、レンジャーからするとハズレ(涙)でしたが、自然はやはり思い通りにはならないものでも最後には子どもたちの充実した顔がありました。自分の足で山を歩き、寒くても長い時間じっと観察し、自然に耳を傾けた経験がなかったのだと思います。そんな8期みんなと活動できたからこそ、最後の活動も自然に学ぶ活動で締めくくることができました。



ハブロからみんなへ

みんな、1年間お疲れ様でした！自然に対する知識を深めながら、いろいろな体験ができたでしょうか。私自身は、みんなと関わられてよかったです。そして、一緒に整備したピオトップでは、春になって植物が芽吹き、カエルが産卵し、産卵に来たカエルはタカや哺乳類たちに捕食されることになったり、水浴びなどのために野鳥が訪れたりして、みんながつながって賑やかになっていくことを確認しました。これからは、水生昆虫なども活発になる時期ですね。また同窓会で、みんなとピオトップを見学し、整備することを楽しみにしています！

写真：今年のピオトップ、アスマヒキカエルの卵埋やヤマアカカエルのオタマジャクシの様子。



「クマが樹に登ると小池傳介著より」

自然の中で みんなと笑い
 発見し 自然に学ぶみんなの姿に
 かっちゃんも学んだ1年でした
 離れていても 共に過ごした自然が
 自然を愛する私たちをつないでくれて
 みんな また会おう そして ありがとう！
 かっちゃんより

2-3 講演、研修、ツアー

「講演・研修・ツアー」の件数は、年々増加しており、市内外の方に本市の自然を発信し、自然への理解を深めるツアーを実施するだけでなく、自然保護活動団体・教育者への研修などを担当し、人材育成に努めています。以下に、事業の内容を抜粋して紹介します。



○ 講演

日 時：平成29年3月11日（土）13：55－14：35

テーマ：両生類と哺乳類などの捕食者の繋がり～特にアライグマの行動など～

実施者：パプロ

参加者：113人

内 容：第19回トウキョウサンショウウオシンポジウムにて、本市のトウキョウサンショウウオの生息状況と、実施している保全活動について発表した。また、保全活動の一つであるアライグマやハクビシンの外来種捕獲活動で、センサーカメラの動画や被害状況を解析した野生動物の行動等について紹介した。

○ 研修

日 時：平成30年6月24日（日）9：20－16：30

目 的：「東京都山岳連盟自然保護指導員新規認定講習会」での講義と実習

実施者：パプロ、加瀬澤

参加者：16人

内 容：「大空からみた生物多様性」をテーマに森を歩く。野生動物の視点で森を歩き、環境や自然保護について考える研修を行った。



○ 研修

日 時：平成30年8月13日（月）13：30－14：30

目 的：西多摩地区の小学校初任者研修の中で「西多摩地区の自然から学ぶ～校外学習での安全管理～」の講義と実習

実施者：加瀬澤、パプロ

参加者：20人

内 容：本市の小宮地区における代表的な自然環境について紹介し、野外学習を計画・実施する際に必要な準備や安全管理について講義を行った（山歩き実習へ出る直前に積乱雲が確認されたため、雨天プログラムの内容で実施）。

○ ツアー

日 時：平成28年11月23日（水）10：00－14：00

テーマ：郷土の恵みの森づくりで整備した協働の道を歩く

実施者：杉野

参加者：14人

内 容：郷土の恵みの森づくりとして養沢自治会と協働で復活させた昔道である「大野道」を利用したツアーを実施した。



○ ツアー

日 時：平成29年4月8日（土）8：35－14：00

テーマ：郷土の恵みの森づくりで整備した協働の道を歩く

実施者：加瀬澤

参加者：7人（雨天のため、キャンセル8人）

内 容：郷土の恵みの森づくりとして網代自治会と高尾自治会が整備した山道である「網代谷津田－高尾神社」間を利用して、地域の方から教えていただいた歴史・文化と、野生動物の痕跡をメインに解説するツアーを実施した。



○ ツアー

日 時：平成30年2月18日（日）10：00－14：00

テーマ：鳥獣観察会

実施者：パブロ

参加者：11人（親子）

内 容：貴重な秋川下流の河川環境について、観察した鳥獣の解説や冬鳥の生息地を知ることを通して、環境と野生動物の関わりを考える鳥獣観察会を実施した。 |



○ ツアー（シュタイナー学園の校外学習サポート）

日 時：平成30年7月10日（火）9：15－15：30

目 的：猛禽の生息環境を知る登山

実施者：パブロ、加瀬澤

参加者：25人

内 容：学校の授業で猛禽学や動物学を学んでいる児童に、猛禽類や野生動物の存在を感じる体験を行い、多様な動植物が生息するためには多様な環境が必要であることを実感するツアーを実施した。



2-4 森づくり事業

本市戸倉地区で平成24年から毎年実施されている「新宿の森・あきる野ツアー」は、新宿区民約40人が訪れ、森林整備と自然ガイドツアーを体験しています。レンジャーは、自然ガイドツアーを担当しています。また、新宿区の子どもたちのサポートや交流を図る目的で森の子コレンジャーも参加しています。交流の中で、コレンジャーが都会の子どもに自然を紹介することがあり、市内の子どもにとって“当たり前の自然”に感動する都会の子どもたちの反応を見て「地域の自然の魅力を再発見」することになり、コレンジャーにとっても大切な体験の場となっています。



2-5 アニマルサンクチュアリ活動

平成24年に始まったアニマルサンクチュアリ活動は、以下3つの取組を継続しています。

- (1) 木を植えた（植樹）後の森の手入れと見守り
- (2) 人間活動の変化によって生息場所が失われた水生生物の環境づくり
- (3) 人間活動に影響がある野生動物の動向に関わる調査と注意喚起

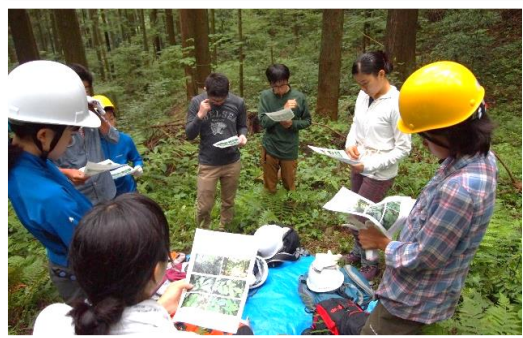
この活動の一部は、次世代の森の守り人となる森の子コレンジャーと協力して活動しており、自然と共存していく方法を考え行動できる次世代を育てる取組とも言えます。

(1)「野生動物が暮らせる森づくり」植樹ツアーのその後

平成25年に本市戸倉地区の中学校林（針葉樹林）において「野生動物が暮らせる森づくり」を目的とした植樹ツアーを実施しました。針葉樹の森を針広混交林とするため、針葉樹を数本伐採した後、コナラやケンポナシ、オニグルミなどの野生動物が利用する木を植樹しました。

翌春、コレンジャーが森を引継ぎ、「自然を昔に戻す会」から譲り受けて1年間育てたクヌギの実生苗とツノハシバミの苗木を植樹しました。植樹後は、下刈りや経過を見守るという目的でコレンジャー同窓会を実施してきましたが、全面的に下草刈りを行った結果、植樹当初は確認されなかったシカの生息場所になったことも要因となり、残念ながら苗木の大半が枯れてしまいました。こうした状況を踏まえ、苗木のツボ刈りに切り替えて整備を続けた結果、苗木の生長は安定しています。また、整備して光が入るようになった林床には、キイチゴ類やサンショウ、アケビ、クリなど野生動物が利用する実がなる実生木が育っています。

植樹した苗木は33本で、平成30年時点では8本が残存しています。今後は、これまでの経過を踏まえ、苗木のツボ刈りや見守りを継続しながら、林床にあたる日光量を増やすため、針葉樹の伐採をスポット的に行い、苗木の生長と埋土種子の発芽を促す整備を検討します。



コレンジャー同窓会の様子



生長しているクヌギ



林床に光が入り芽吹いた実生たち

(2) ビオトープ整備

小宮地区で50年から60年前まで谷津田だった場所を、平成25年度からコレンジャー（第3期）と継続して整備しています。地権者の協力のもと、田んぼを利用してきた生き物の生息場所を復活させることを目的としています。平成30年度（第8期）には、全国育樹祭のために育成した苗木など3本を植樹しました。

主な整備内容は、水生生物や小動物が利用する水場づくり、林床の日光量を減らしている常緑広葉樹を伐採して埋土種子の発芽を促す「動物のレストラン」づくり、水場の砂防づくり、これまで整備してきたビオトープまでの道や周辺の森の手入れなどです。倒木や伐採した木は、柵や杭、土留め、砂防に活用するだけではなく、後輩が作る名札に利用しています。

ビオトープでは、これまでに両生類やトンボのヤゴなどの水生生物、ヘビ、小型哺乳類、鳥類など多くの野生動物を確認できています。こうした小動物が生息できる場を作ることは、その小動物を捕食する動物、その動物を捕食する動物へと命をつなぐ場をつくることとなります。そして、ビオトープは多様な野生動物の命を支えるだけではなく、野生動物の影響を受ける人の暮らしをも支えていると考えています。一方で、人が手を入れた所には必ずイノシシやシカの存在があります。このビオトープも例に漏れず、水場や動物のレストランが荒らされてしまい、何度も整備をしなければいけません。自然は絶えず変化しているため、自然に合わせた行動が必要なことを子どもたちは体験から学び、試行錯誤しながら協力して整備を行っています。



整備前（平成24年）



整備後（平成30年）



水場の整備



落ち枝や伐採木を利用した柵づくり



水場の砂防づくり



ビオトープまでの道の整備



冬に実をつける植物の移植



育てた苗木の植樹



水生生物調査



伐採木を利用した名札

○ ビオトープで確認された野生動物（センサーカメラ、目視、痕跡）

項目	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	昆虫	合計
種数	14種以上	34種	3種	5種	22種以上	78種以上

キツネ



ノスリ



ノウサギ



両生類の卵



モリアオガエル



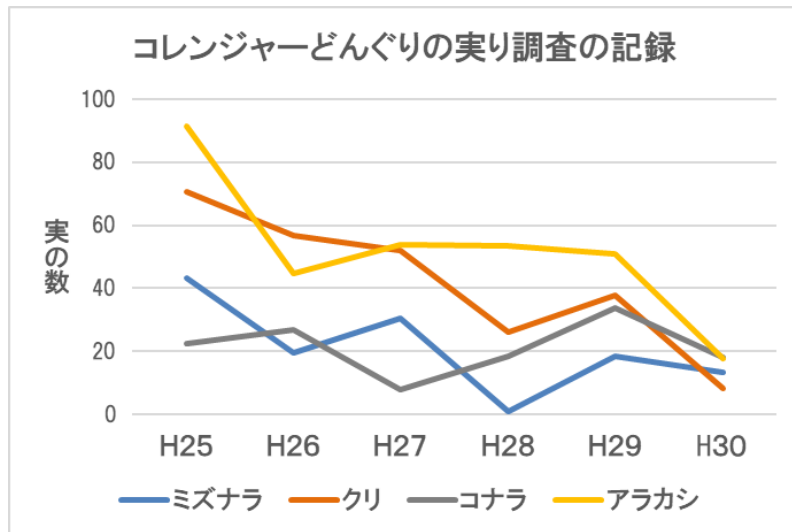
ヒバカリ



(3) どんぐりの実り調査

レンジャーは、平成25年から市内西部のどんぐり着果状況調査を行っていますが、その調査地の1地点ではコレンジャーが調査を行っています。コレンジャーは調査を通して、森の実りは年によって違うことや多くの野生動物にとってどんぐりは重要な食物であること、餌付けの問題などを学び、自分たちにできることを考えた結果、「野生動物を人里へ誘引しない行動」を伝える注意喚起ポスターを作成することにしました。そして、地域の掲示板や観光客の目に留まる場所に掲示しています。地域の方からは「観光客に対して私たちが注意するより、こうしたポスターを見て自分の行動を考えてもらう方が、効果があるようなので子どもたちのポスターは助かっています。今後もぜひよろしくお願ひします！」という声をいただいています。また冬には、過去にツキノワグマが出没したキウイ棚のキウイを収穫し、人家近辺の果実を収穫する大切さを学びました。キウイは各家庭で美味しく頂きました。

(どんぐり着果状況調査の詳細は、「4 どんぐり着果状況調査」参照)



どんぐりをカウントする



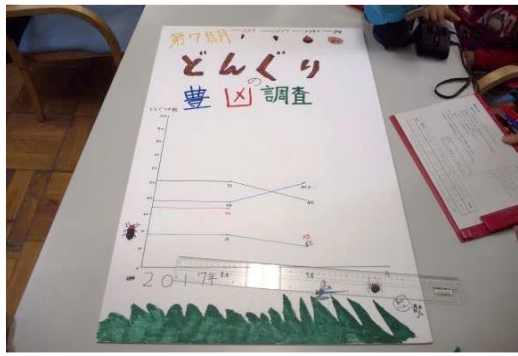
どんぐりを知る



どんぐりを利用する生きものを知る



調査結果をまとめる



調査結果をまとめる



注意喚起ポスターを作る



キウイを収穫する

感想や発見したつながり

キウイフルーツ
 私はキウイフルーツがとれよかったと思います
 理由は、私たちは、おいしく食べられて、クマなどによる
 ひがいを少し減らすからです。

キウイの収穫を通して考えたこと（コレンジャー活動報告書より抜粋）

○ 地域の掲示板や観光客の目に留まる所に掲示している注意喚起ポスター

